

男女のライフコース戦略と未婚化

The Success or Failure of Men's and Women's Life Course Strategies: An Explanation for Later and Fewer Marriages in Japan

佐藤龍三郎（中央大学）

Ryuzaburo Sato (Chuo University)

sato.ryuzaburo@gmail.com

1. 人口研究における「ライフコース戦略」概念の導入の意義

人口研究には「マクロアプローチ」と「個人（ミクロ）アプローチ」があり、両アプローチの統合が模索されているが、「個人」と「マクロ」の距離の隔たりはとてつもなく大きく、即座には結びつき難い。そこで両者を介在するものとして「ライフコース戦略」の存在を想定し、その意義、有用性、課題等について検討する。「ライフコース戦略」には、個人を中心に見て、配偶者、親、子などが絡むが、ここでは男女の配偶（結婚）に関する戦略に着目し、この戦略の成否と日本の近年の未婚化との関わりについて考察する。

2. 男女の配偶に関するライフコース戦略とその組み合わせ

男女各々について、結婚後の家計（経済）と家事の分担の観点から、ライフコース戦略を想定し、次のように類型化する。なお、ここでは親子関係や、夫婦以外の親族関係は考慮に入れない（注1）。また、ここでいう家事には育児を含める。男（女）について下記の通り、3つの型（2型には3つの亜型）を想定する。

M(F)1 戦略：就業は不安定あるいは低所得で、経済・家事の両面で妻（夫）と協業する。

M(F)2 戦略：生涯「本格的に就業」し、結婚後も妻（夫）に経済的に依存しない（注2）。

M(F)2a 戦略：家事は主に自身が担う。

M(F)2b 戦略：家事は夫婦で協業する。

M(F)2c 戦略：家事は主に配偶者が担う。

M(F)3 戦略：結婚前は無業（あるいは腰掛けの就業をして）、結婚後は妻（夫）に経済的に依存する。家事は主に自身が担う。結婚後の家計補助的な就業もここに含める（注3）。

男女それぞれ基本3型あるが、組み合わせは9つではなく、4つになる。なぜかといえば、F1はM1としか適合せず、男女どちらも家計を相手方に依存するM3とF3の組み合わせは成り立たないからである。すなわち、次の4つの組み合わせ類型ができる。

<組み合わせ>

F1 戦略×M1 戦略

F3 戦略×M2c 戦略

F2 戦略×M2 戦略

F2 戦略×M3 戦略

以下、これら4つの組み合わせ類型について説明する。

(1) F1 戦略と M1 戦略の組み合わせ

経済が発展する前（江戸時代から明治、大正、昭和初期）の日本の庶民の間では一般的

なパターンであり、「共働き」パターンの一つである。

(2) F3 戦略と M2c 戦略の組み合わせ。

性別役割分業 (breadwinner and homemaker) パターンである。日本では、経済発展前は武家や一部の富裕層のみにみられたが、経済発展後、都市サラリーマン層から始まり、全国的に広く見られるパターンとなったとみられる。「近代家族」の一般形とみなされるようになった。日本の社会保障制度はこのパターンに照準を当てている。主要新聞の4コマ漫画の主人公一家もこのパターンで描かれた(サザエさん、フジ三太郎、アサッテ君など)。

(3) F2 戦略と M2 戦略の組み合わせ

もう一つの共働きパターンである。1980年代以後の女性の高学歴化とともに、多く見られるパターンになった。家事分担にはいくつかの形がある。出産・育児期には育児休業と保育サービスの利用が夫婦にとって就業継続の鍵となる。

(4) F2 戦略と M3 戦略の組み合わせ

稀に見られるパターン(ただし家事は妻が主に担う場合もある)である。「髪結いの亭主」といわれ、女性の社会進出が盛んになる以前にも見られた。

3. 男女の配偶に関するライフコース戦略の視点からみた未婚化

女性の就業や夫婦の家事分担と少子化を絡めた研究は多いが、「戦略」の視点が欠けており、分析結果の解釈に苦しむこともある。男女のライフコース戦略とその組み合わせという視点を導入することにより、就業と家事分担の意味が明らかとなり、少子化・未婚化との関係により深く迫ることができよう。

第二次世界大戦後の日本では、高度経済成長期に性別役割分業パターンが隆盛をきわめるようになったが、経済成長がピークを過ぎた1980年代以降、女性の高学歴化や産業のソフト化の流れを受けて、このパターンは転機を迎えた。とりわけ、1990年代以後の経済低迷期を迎え、男性の雇用形態が不安定化し(女性はもともと不安定)、賃金水準が低く抑えられる中で、従来の戦略が立ち行かなくなっているものとみられる。

さらにいえば、M2 戦略(生涯「本格的に就業」し、結婚後も妻に経済的に依存しない)が可能な高所得ないし中所得の男性のうち、とりわけ中所得層の男性が細り、この層の男性を結婚相手に想定していた女性の F3 戦略(結婚後、夫に経済的に依存)が成り立ちにくくなったことが未婚化のかなり大きな要因をなしていると推測される。

なお本報告は、概念と仮説の提示にとどまる。実証は今後の課題である。

(注1) 実際には家庭生活(家計と家事)は夫婦関係では完結せず、夫婦の親からの支援(逆に親への支援)、夫婦と子の関係(子の扶養、逆に老後、子に扶養される)などの関係が絡む。

(注2) 「本格的に就業」とは、典型的には正規就業かつ終身雇用(または自営)で、自身と家族の生活がまかなえ、持ち家を購入できるほどの生涯所得とまずまずの額の退職金を得、退職後はまずまずの年金を受給できるような就業のことである。

(注3) 配偶者に経済的に依存するという事は、結婚後配偶者が働いている間はその所得に依存し、配偶者の退職後は配偶者の年金や資産に依存し、配偶者の死後はその遺産や遺族年金などに依存するという事である。